

## 令和2年度 政策討論会 第二分科会(第7回) 要点記録

・日時 令和3年1月21日

・場所 議会会議室

・会議時間 10:00～10:45

・出席者

雪本 清浩(座長)

友永 修(副座長)

田中 市子

堂本 啓祐

反甫 旭

河合 馨

米田 貴志

岡林 憲二

(座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. 6回の分科会で抽出された課題(4項目にまとめた)に対する、岸和田市が取組まなければならない今後の姿について意見交換した。
2. 競輪場を活用した観光促進であるが、競輪場だけで出来る事ではない。本市が同じ目的、同じ方向性をもって協力し合わなければ実現は難しい。そのために、総合的なプロデュースが出来る民間事業者に委託をし、競輪場のあり方を根本から見直す必要があるのではないか。そして、サイクルステーションに指定されている競輪場を拠点とした本市独自のサイクルルート(観光コース)を整備し、岸和田ブランドや観光施設などのPRも含め賑わいの創出に繋げるべきであるとの意見が出された。また、競輪場の整備計画の第一期工事は、バンク改修と管理棟であり、宿泊施設や外観など第二期工事に反映されるような提言・提案をすべきであるとの意見もだされた。
3. 次回の討論会日程は、2月12日(金)10時～とし、今回のテーマに対する提言書作成を行う予定。

## <各議員の発言要旨>

※順不同

● 討論テーマは「競輪場を活用した観光促進」であり、その主旨は①自転車競技を核としたスポーツツーリズムをメインに目的を持った交流人口の増加を図り、広域にも拡大させるべきである。②体験型観光が増える中、本市の得意分野を活用すべきである。③競輪場を公営競技だけの目的から脱却させ、活用すべきである。との3点であった。この3点の目的と、これまでの議論を踏まえると、1点目に現在の競輪場のあり方を大きく変えなければならないと言うことが見えてくるのではないかと。先ほど、他の委員からも指摘がありましたが、公営競技を楽しみに来られる方々だけのものではないという視点。この視点を持って、本市が本気になって取り組み、アピールすることができるのかと問われる。また、そのためにはどのような施設が求められるのか、ということが2点目に挙げられるのではないかと。そして3点目に、それを活用した展開をどのように考えていくのか、と言うこと。これら3点が大きなポイントとなるのではないかと。特に、競輪場のあり方については、仮称ですけども「サイクルパーク」というようなイメージで、スケボーができるエリアがあったり、BMX やトラックレースができたりとか、そういったところを踏まえて、多くの方々が集える施設にしなければならないのではないかと。また、自転車で泉州を訪れる方々には、サイクルステーション、要は休憩所としての位置づけ、こういった点もしっかりとアピールしなければならない。加えて、市内のいちご農園やミカン、桃などの果樹園や造り酒屋などと繋ぐサイクルルートの構築、並びにPR。この様な点も大事になるのではないかと。また、3点のテーマを具体化していくには、施設のあり方というのは大きいと考える。各委員の方々から、ありましたが、一期工事が始まっている。しかし、今回の討論の内容から見る施設のあり方については、十分にまだ間に合う話である。一期工事はバンク改修と管理棟改修工事であり、2期工事になって初めて、選手宿舎棟が現BMXコースのところに建つことになろうかと思う。そうするとBMXコースは現正門付近にあるエリアに移動されることになる。もっと言えば、このバンク周辺については、今後、どのような色付けがなされるのか、それは2期工事で問われる。そこで出てくる課題は、一つは財政的なものである。これ大きい。そこにどのようなスポンサーをつけることができるのか。例えば、玉野競輪場ですが、「チャリロト」と言うところが、委託契約を受けて、(競輪場の)委託管理を行っている。そして競輪場の横にホテルを建設して、地元の宿泊企業に委託をしている。先ほど、総合的なプロデュースをする民間事業者が必要ではないかとの発言があったが、まさにその通りだと思う。そう言った事業者を探しながら、どういった絵が描けるのかということも募集する一つの方法ではないかと考える。できれば、ホテルの誘致ということに関しては、都市公園という、大変にハードルの高い網がかかっていることは承知しているが、それらも含めて、どう解決していくか、そこは本市の知

恵が求められることである。そうすると、他の委員からもありましたが、市と競輪場が同じ方向を向いて走るということをしなければ、そういうところには至らないのではないかと考えられるので、それらを踏まえて検討すべきであり、提案すべきではないかと考える。課題に対する提案は以下

- ①仮称サイクルパークとして、自転車競技の拠点化を図る。(BMX コースの移転とスタートヒル及びコースレイアウトの国際基準化<5mヒルも併設>)(BMX フリースタイルコース及びスケボーパークの設置)
- ②特別なサイクリステーションとしての確立と情報発信(休憩、食事のみならずシャワーや仮眠、自転車の簡易な修理も可能であることから専門性が活かせる特別な休憩所であることを周知)
- ③民間運営による 200 人キャパ程度のホテルを誘致する(選手宿舎の建設が想定されるが、ここ数年の本場開催が年間 40 日であることから、この宿舎を民間運営による 200 人キャパ程度のホテルを誘致し、本場開催日は、一般の利用は不可とし、それ以外の日は一般利用できるようにする)
- ④サイクリストの宿泊等及び自転車競技をベースとしたイベントや大会(合宿等含む)の誘致及び泉州エリアのサイクリスポットへの押し出しと、自転車メーカーによる新車の PR 会場や展示会場及び音楽フェスの会場としての利用
- ⑤市民を巻き込んだ本市独自の自転車イベントの開催
- ⑥公営競技と競輪場施設を活用し、賑わいの創出事業の展開ができる民間事業者の公募

●①競輪場の施設については、バンク整備が進んでいる中、今後の整備計画に斬新さを考慮し(車券の売りに特化せず)競輪場の多様化を考慮した整備を進める必要がある。②競輪場だけでは、無理が生じることもあると思われる。市長助言の上で、観光課等との連携で進める方向の提言が必要と思う。③NPO 法人ドゥールースだけでは限界があるので支援の強化と PR・周知方法等は本市も交えた中で進めることが重要である。④広域での取り組みは中々一気には進めないと感じるので、まずは本市の中でのツーリングコース(莓園・愛彩ランド・牛滝・久米田池等々)に盛り込んで魅力ある取り組みの推進、実施を提言すべきである。

●①宿泊施設の誘致と飲食店の充実が必要②老若男女問わず、誰もが参加しやすいスポーツプログラムの検討③BMX競技については、いろんな方々に知ってもらう必要があるので、映像等をネットや新聞を活用して、さらにPRしていくべき④岸和田はもとより、泉州地域を巡るサイクリングコースの充実と、定期的なサイクリング大会の創設が必要

●現在の公営競技事業所の業務には売上向上は含まれているが、観光の視点はないように感じる。市として、魅力創造部と公営競技事業所が連携し、(仮称)サイクルパークのようなかたちで競輪場の発展を考えていく必要がある。

●施設整備により、外からも見える開放感のある施設に生まれ変わろうとしている。魅力ある店舗の誘致や周辺道路などの整備なども行い、岸和田の魅力発信の場、観光拠点の一つ(仮称)サイクルパークとして位置づけること。

●平成 28 年から始まった今回の改修では、施設老朽化への対応や耐震性の強化、トイレなど衛生面の改善や多様なお客様のニーズに対応するためのユニバーサルデザイン化が計画実施されている。今後はさらに、競輪場が都市計画公園地内にあることもあり、(仮称)サイクルパーク(参考:大垣競輪場)として、閉鎖感のあるフェンスの取り外し、アスファルトや砂利地の芝生化、トレーニングルームの一般開放、子ども向けサーキットコースの整備などをすすめ、家族で楽しめる競輪場、市民に愛される競輪場となることを期待する。競輪場を競技場としてバンクも含めて市民に開放し、市民はもちろん全国からサイクリストを誘致してトラックレースを体験させるなど、競輪場が身近に感じられる施設となるよう期待する。また、家族が楽しめる観客席の整備や、競技場としてカテゴリーアップの公認が得られるよう BMX コースの一層の充実を期待する。

●①選手棟を宿泊施設として整備し、一般でも利用できるよう整備計画に盛り込んではどうかと考える。民間ホテルを誘致し観光客の集客を図ることも検討すべきである。外観を含め、子どもから高齢者までが憩える場(公園)を整備すべきである。②一定のルールを定め、一般開放すべきと考える。例えば、サイクルルートの中に競輪場のバンク走行を盛り込むなど検討してみてはどうか。本市独自のスポーツプログラムも検討すべき(スケートボードなど)。③多くの方が観覧できる観客席(スペースだけでも)の整備が必要ではないか。④“サイクルステーション”として、ラック・スタンド等の整備が必要であり、訪れた方が休憩出来る場所の設置が必要である。そこで岸和田市の魅力を感じていただけるようなイベントなどを積極的に行ってみてはどうかと考える。

●先進事例として、①民間包括委託(日本写真判定が運営や施設管理を包括的に委託)の実施。イベント、一般開放や施設管理、スタッフ教育まで一括委託をしている。岸和田競輪の業務委託より一段と進んでいる。②久留米競輪事業収益向上基本構想策定業務公募型プロポーザルの実施。収益向上の為に公募型プロポーザルを実施し、外部の考えを取り入れる努力をしている。等を紹介させていただきます。競輪場を

活用した観光促進のためには、平素から幅広い世代の人々が集える場所に整備されなければならない。その為には、①施設内外を明るく、開放的な環境とする。②公園や運動の場としての利用や、自転車関連イベントや大会を開催する。③ツーリングの駅を設置するなど、自転車愛好家が集う場をつくる。④選手宿舎を兼用するホテルを建設する。⑤施設やイベントスケジュール等を更にPRする等が必要と考える。また、経済産業省(2016.5.24)車両競技小委員会では、競輪事業に係る各組織団体が個々に活動しても効果が薄いので、業界全体でPDCAサイクルを回すための体制づくりが必要としている。そこで、以上の事を実現する為に、①岸ビズや民間企画業者に委託し、競輪場やドゥールース、スポーツ振興課、観光課及びKIX泉州ツーリズムビューローが参加する総合的なマネジメント組織(定量的、定性的な目標値を持った)を運営してもらう。又は、②(仮称)競輪場活性化基本構想策定業務公募型プロポーザルを実施し、広く優秀な提案を募集するべきと考える。